

冬季研修会ニュース

こんなことも学んでみませんか

講座内容紹介、ご質問へのお答え

冬季研修会に多くの方が申し込みくださっていることに感謝申し上げます。

11月に出した二次案内の紹介だけでは、講座の内容を十分にお知らせできていないところがありました。そこで、講座 C、E、F について、あらためて講座の内容について追加の説明をするとともに、参加を考えておられる方から寄せられたいくつかの問い合わせにもお答えします。なお、講座 C、Eは定員30名といたします。

講座C アクセシビリティ、パワーポイントの活用 ①

研究発表などでパワーポイントのスライドを見たり、実際に活用されている方は少ないと思います。「見てよく分かる」ということは、子どもたちへの「視覚支援」に最適です。学習障がいの子ども、発話が難しい子ども など多様な展開が可能です。

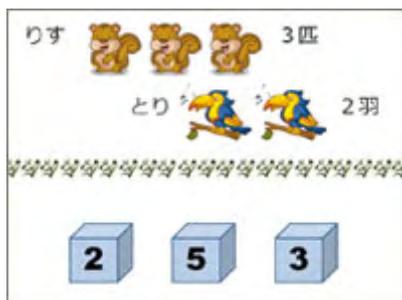
PowerPoint で文字を構成するパーツを、色の変更やアニメーションなどの動的効果を活用して強調し、注意を喚起して文字の学習に役立てる。

(書き順付き漢字スライド)



自分が働きかけることでリアクションがあり、楽しみながら学ぶことができる。

(足し算スライド)

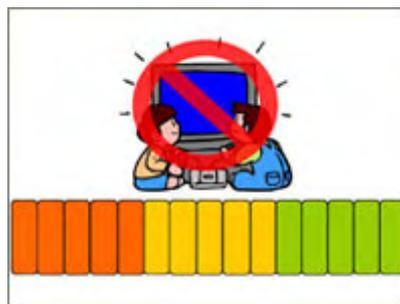


シンボルに対応する音声シンボルをクリックすると、そのシンボルに対応する音声を発話する。(VOCAスライド)



教師からの時間に関する指示が、楽しく遊んでいるうちに「針がどこにきたときまでだったっけ?」とわからなくなってしまふような時間の感覚を把握することが難しい子どもに役立てられる。

(タイムエイドスライド)



☆これらの役立ちソフトを解説いただけます。ぜひご参加ください。

☆当日、PCをご用意していただけます。何人かで1台になります

が、実際に体験しながら受講していただけます。(定員は30名です)

☆マイクロソフト社のWebサイトを見てください。

<http://www.microsoft.com/japan/enable/ppt/>

講座C アクセシビリティ、パワーポイントの活用 ②

アクセシビリティという言葉になじみがない、よくわからない、という方が多いようです。パソコンでおなじみのマイクロソフト社が提唱されるアクセシビリティ機能とは、障害(しょうがい)のある方や高齢者などが、より簡単・手軽にPCを使いやすくすることを目指すものです。そして、障害のある方や高齢者を含めたすべての人々が自己の可能性を最大限に引き出すことができるようにすることを目指しています。

☆マイクロソフト社のWebサイトを見てください。

<http://www.microsoft.com/japan/enable/>

12月4日の朝日新聞に、常用漢字(当時は当用漢字)が制定される際に「碍」が入らなかったため、「障害者」が「障害者」と表記するようになったことを改めるため、常用漢字表を見直す動きがあるという記事が掲載されていました。

マイクロソフトの最高技術責任者もインタビューに答えており、マイクロソフトではこの考えに賛同していて、Windows 7からは、「障害」が採用されているそうです。

このように企業として考えておられるということが、インクルーシブな社会作りにつながるだろうと思います。

(定員は30名です)

講座E ICFの基礎・基本とその活用

『ICF』という言葉、最近よく聞きます——。

新しい「障害の考え方」だということだけどうということだろう？

ICFについて、少しは知ってるつもりだけど、具体的にはどうということ？

障害のある人への支援を考えていく上で大事なことだと聞いたけど、どう
いうふうにしていくんだらう？

ICFとはInternational Classification of Functioning, Disability and Healthの略で、日本語では国際生活機能分類と言います。人間の生活機能と障害の分類として、2001年5月、世界保健機関（WHO）総会において採択されました。

教育において、ICFを活用するとはどうということか。また、ICFを活用することで何ができるのか。

本セミナーで、ICFの基礎・基本からその活用まで、一緒に学び、可能性を確かめてみませんか！
(定員は30名です)

☆ ICF-CY Japan Network のWebサイト を見て下さい、
<http://www.icfcy-jpn.org/wp/>

講座F 子どもの性を考える

講座に参加される方が、どのようなことに悩んでおられるのか、どんなことを考えておられるのか、どんなことを知りたいと思われておられるのか、・・・

講座に参加される方から、それらについて日頃考えておられることや事例を含めてお知らせいただければ、それをもとに講師の方がお話していただけます。

参加される方で、聞いてみたい、相談したいことがある方は、開始前の受付の時点で事例などをお書き下さい。講座の前半は、講師の方からテーマについてのお話をさせていただきます。後半は、できるだけ参加される方が書かれたことをもとにお話したい、というのが講師の方の考えです。実際に子どもたちの姿を念頭に置いた内容で話し合いができればいいな、と考えております。

お問い合わせにお答えします よくあるご質問

「参加申し込みは、どうしたらいいですか？」

インターネットの大支援研のサイト（「大支援研」で検索して下さい）の「冬季研修会」のページに「申込ページ」がありますので、そこから申し込んでください。

<http://daishienken.visithp.com/kenkyukai/toki2009.htm>

「参加できるのは、教師だけですか？ 保護者は？」という質問がありました。

大阪府教育センターの方の講座である A. D. は教職員限定とします。
他の講座 B. C. E. F. G. は、保護者の方を含め、いろいろな方、歓迎します。

「参加できるのは、大阪の教師だけですか？」という質問がありました。

全国（全世界）どこから来ていただいても歓迎です。

講座B「バーチャルAD/HD」は、実際に体験できるのですか？

今回の研修会では、ヤンセンファーマ社の方にバーチャルAD/HDを開発されたことについての講演をお願いしており、実際に体験することは想定しておりませんでした。というのは実際に体験していただくならば、きわめて少人数の方に参加を限定せざるを得ない訳であり、それよりも開発の考え方や、どのように活用されているかなどを多くの方に知ってもらうことを重んじていました。

しかし実際に体験してみたいといわれる希望が多いので、当日、ヤンセンファーマ社の方に2台の機械を持ってきていただきます。午前10時半～12時を講演とし、その後、約1時間を体験していただく時間とします。

体験は、1人の方、1回に約7分かかりますので、参加される方のごく一部の方だけしか体験いただけません。当日、来場された時点で希望される方に申し込みしていただき、順番も含めて抽選させていただきます。